

claim 1

1060.130.2

A bathing preparation
containing, as an active ingredient,
a water-alcohol mixed
solvent extract of chamomile's
stalk and/or leaf.

JP pubn #

6-104621 published 21 Dec 1994

L Reference B] (BU)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許出願公告番号

特公平6-104621 pubn#

(24) (44) 公告日 平成6年(1994)12月21日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 K 7/50

9164-4C

published 21 Dec 1994

請求項の数 2 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平2-190583

(22) 出願日 平成2年(1990)7月20日

(65) 公開番号 特開平4-77416

(43) 公開日 平成4年(1992)3月11日

(71) 出願人 999999999

相互印刷工業株式会社

東京都江東区牡丹2-7-5

(72) 発明者 山田 俊雄

神奈川県横浜市港北区仲手原2丁目38番25号

(74) 代理人 弁理士 小野 信夫

審査官 吉村 康男

(54) 【発明の名称】 浴用剤

【特許請求の範囲】

【請求項1】 カミツレの茎および/または葉の水-アルコール混合溶媒抽出物を有効成分として含有する浴用剤

【請求項2】 カミツレの茎および/または葉の水-アルコール混合溶媒抽出物が、はじめに常圧で攪拌抽出し、ついで、加圧下攪拌抽出し、更に減圧下攪拌抽出した後、常圧に戻して抽出をおこない得たものである請求項第1項記載の浴用剤。

【発明の詳細な説明】

〔産業上の利用分野〕

本発明は浴用剤に関する。

〔従来の技術〕

カミツレは、欧州原産の薬用植物であり、その花頭は生薬として消炎、発汗、駆風剤として用いられ、更に浴湯料として使用されている。

【発明が解決しようとする課題】

しかし、カミツレの花頭以外の部分については特に使用用途がなく、そのまま廃棄されているのが現状であり、その利用方法の開発が求められていた。

【課題を解決するための手段】

本発明者は、カミツレの花頭以外の部分の利用について検討していたところ、カミツレの茎及び葉の部分を用一定の方法で処理して得た成分は、浴用剤としての優れた性質を有することを見だし、本発明を完成した。

すなわち本発明は、カミツレの茎および/または葉の水-アルコール混合溶媒抽出物を有効成分として含有する浴用剤を提供するものである。

本発明の有効成分である、カミツレの茎および/または葉からの水-アルコール混合溶媒抽出物（以下、「カミツレ抽出物」という）は、カミツレ全草から花頭と根を

除去し、これを水と、エタノール等のアルコールとの混合溶媒中で抽出することにより得られる。

原料であるカミツレは、開花期に刈り取り、その花頭を取り去り、これを天日で淡褐色になるまで乾燥させた物（水分含量13~20%程度）を利用することが好ましいが、場合によっては若干量のカミツレ花頭の混入した物を利用してもよい。

また、抽出に用いる水-アルコール混合溶媒は、水とアルコールの比が70:30~4:96程度であることが望ましく、その使用量は原料カミツレの葉や茎に対し、約10重量倍（対乾燥重量）程度とすることが望ましい。

抽出操作は、室温で行うことが望ましいが、従来からの方法では室温ではカミツレからの有効成分の抽出率が悪く、また、加温した場合には有効成分が分解する恐れがあるので、次に示す本発明者らの開発した方法に従い、実施することが好ましい。

まず、抽出装置として、ミキサー羽を有し、加圧、減圧ができる密閉容器を利用し、この抽出装置内に原料のカミツレの葉や茎と水-アルコール混合溶媒を入れ、はじめに常圧で攪拌抽出し、ついで、加圧下攪拌抽出し、更に減圧下攪拌抽出した後、常圧に戻して抽出をおこなう。

上記の加圧-減圧抽出サイクルを1ないし数回行った後、抽出混合物を別の密閉容器に移して数日ないし三十日程度静置する。

ついで、抽出混合物を濾過や遠心分離に付すことにより、目的とするカミツレ抽出物を得ることができる。本発明の浴用剤は、上記のようにして得られたカミツレ抽出物をそのまま、もしくは公知の他の浴用添加剤と組み合わせることで配合することにより調製される。

使用される浴用添加剤としては、沈澱発生等の問題を生じないものであれば何れをも利用することができ、その例としては、ビタミン剤、界面活性剤、殺菌剤、防腐剤、香料、色素等が挙げられる。

本発明はの浴用剤は、通常、家庭用浴槽（180~210l）に、10~200ml程度、好ましくは30~100ml程度を加えればよい。

[発明の効果]

本発明の浴用剤は、後記実施例にも示すように、従来有効性が認められているカミツレ花頭からの浴湯料に比べ、体の温まり方、肌を滑らかにする効果、疲労の回復、肩こり治療等の面で優れていた。

従って、本発明の浴用剤は、あせも、荒れ性、にきび、肩こり、神経痛、冷え性、腰痛、リウマチ、疲労回復、産前産後の冷え性、痔、うちみ、湿疹、しもやけ、ひび、あかざれ等の症状に有効に利用される。

また、本発明によれば従来使用されなかったカミツレの茎や葉から、生薬として利用されているカミツレの花頭以上の浴用剤成分が得られるので、経済的にも有利であ

る。

[実施例]

次に実施例を挙げ、本発明を更に詳しく説明する。

実施例 1

カミツレ抽出物の製造：

花頭と根を取り去り、天日で乾燥させたカミツレの葉と茎14kg、エタノール（95%）96l及び水64lをミキサー羽を内蔵する密閉容器に入れ、常圧で3分間、加圧（1.1kg/m²）で6分間、減圧（50mmHg）で6分間、更に常圧で3分間攪拌抽出を行った。ついで、この抽出混合物を別の密閉容器に移し、10日間室温で放置した。放置後、抽出混合物を濾過し、この濾液にエタノール（53%）を、濾液中の精油分が0.3%となるまで加え、これをカミツレ抽出物とした。

実施例 2

実施例1で得られたカミツレ抽出物を成分とする浴用剤（本発明品）を調製し、その効果を実施例1に準じてカミツレ花頭から得られた抽出物を成分とする浴用剤（比較品）と比較した。

比較試験は15名のパネラーが28日間本発明品と比較品を使用し、体の温まり方の状態、入浴後の肌の滑らかさ、疲労回復感、肩こりの改善についてそれぞれ以下の評価基準で点をつけ、その合計を求めることにより行った。この結果を第1表に示す。

評価基準：

（各評価項目について）	非常によい	2
	よい	1
	変わらない	0

結果：

第 1 表

試験試料	試験項目	評点分布			評点合計	総得点
		2	1	0		
本発明品	体の温まり方	5	2	0	12	70
	肌の滑らかさ	9	6	0	24	
	疲労回復感	7	8	0	22	
	肩こりの改善	4	4	0	12	
比較品	体の温まり方	1	5	1	7	49
	肌の滑らかさ	4	11	0	19	
	疲労回復感	1	13	1	15	
	肩こりの改善	1	6	1	8	

上記の結果から明らかなように、本発明品はカミツレ花頭を利用した比較品よりも優れた浴用剤であった。